

1	会議名	第3回習志野市新庁舎等基本設計検討委員会
2	開催日時	平成25年12月24日(火) 15:00～16:30
3	開催場所	消防庁舎4階会議室
4	出席者	委員 廣田委員長、鈴木副委員長、倉斗委員、伊藤委員、杉林委員、田久保委員、 事務局 吉川本部長、井手副本部長、江口主幹、笹森技師、鈴木主事 設計者 株式会社 佐藤総合計画 関野取締役、渡辺副室長 川波主任、龍神氏、柴崎次長
5	議題及び会議の概要	
<p>本会議の公開</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 議事 基本設計(案)について 資料説明、質疑応答</p> <p>「5つの基本理念」に対する設計での対応、配置ゾーニング計画、各階プラン(市庁舎)を中心に設計者から説明がされた。</p> <p>なお、平面図はあくまで現時点での検討中のものとして、引き続き検討していく上でご意見をいただきたい旨の説明があった。</p> <p>《質疑・意見等》 ※→は設計者または事務局の回答箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GFから1階までのエスカレーターは上りだけだが、これは上りのみ整備するのか。 また、市民レストランについて、広さは旧本庁舎のレストランと比較するとどうなのか。 →エスカレーターについては上りのみです。市民レストランの広さについて、従来よりは少し小さくなります。席数は約50席程度として厨房の広さに応じた席数となっています。 ・フロア毎で会議室の数が異なるが、会議室の数や広さについては、各課とヒアリングを実施した上で足りているということの良いのか。 →トータルの会議室の容量は他市の事例を基に設定しています。また、各課の会議開催状況などをヒアリングした上で検討しています。前提として、会議室は各階での専用ではなく全庁的に共有とすることとしています。 ・現状での会議室数に対して稼働率などを把握して、新庁舎で必要な会議室を定めているのか。 →会議室数については、旧本庁舎と分室等を合わせた会議室数と比べると室数・総面積共に増えています。会議室は慢性的に不足しており、会議の開催日程を調整する時に会議室が取れなくて候補日を設定することも困難なケースもあるため室数と容量も増やしています。 基準としては設計者の把握している他市事例での自治体の庁舎における平均的な会議室面積割合を参考にしました。また、大会議室を複数設置し、パーティションで区切ることで複数の会議が 		

開催できるようにします。

・会議室の増床について、実際の会議開催の稼働率等は把握しておいた方が良いと思います。

→了解しました。

・庁舎のカウンターの形状についてですが、前は片廊下型でしたが、今回は中廊下型での設計案になっているが、現在までの検討経過を教えてください。

→各課へのヒアリングを進める中で、窓口対応におけるカウンターへのアプローチやカウンターの全長を考慮すると中廊下型の方がカウンターまでの距離が近く、来庁者を待たせないで直ぐ対応できるという意見が多かったため、中廊下型で現在は検討している。また、片廊下に比べ中廊下の方がカウンターの全長が短くなるため、来庁される方が希望する課の窓口まで歩く距離も短くなります。

・こども部や教育委員会の配置されている2階や都市整備部等がある4階は奥行が短い方が良いという考えですか

→2階については奥行の面もありますが、ヒアリングを進める中でこども部と教育委員会は業務上の連携が多く、近くに配置されていた方が良いという意見が多数ありました。そのため、同じフロアに配置しました。その際に、中廊下型にして通路を設けることで来庁者にそれぞれの部局等の窓口を分かりやすく示すことができると考えています。

・中廊下、片廊下については現在検討中とのことですが、照明計画等もどちらのプランでも対応できるものを検討しているのか。

→照明はシステム天井にすれば、割合移動しやすく、モジュールについても事前にある程度考えておけば対応もしやすくなるかと考えています。

・フレキシブルなフロアレイアウトが可能であるということは分かったがその事を市民の皆さんに分かり易く説明する必要がある。実現性として、一度片廊下で配置したものを中廊下に変えることはあまり想定しにくいのではないかと。フレキシブルにすることにはどのような狙いがあるのか
→市役所では毎年人数の増減や組織変更があることが多いという印象があります。将来について現時点で予測する事は難しいが、庁舎完成後に増築する事は難しいので執務室を広げるだとか、会議室を新たに増やす等の必要性が生じたときにレイアウトが変更可能であると、限られた庁舎面積を有効活用する事に繋がると考えています。

・フレキシビリティを考えるなら、片廊下型のオフィススタイルにした方が、人数の増減や組織変更に対応しやすいのではないかと印象がある。

→庁内の各課ヒアリングを行う中で、中廊下型・片廊下型の両方を提示してその上で習志野市では中廊下型の要望が多かったため中廊下で現在検討を進めています。窓口がある課については、片廊下型のオフィススタイルよりも中廊下型で各課がカウンター対応をおこないやすい形状となる

ように検討しています。その上で将来的な変更も可能な設計としています。

・空調方式については、中廊下・片廊下に応じて変更する必要はないのか。

→空調方式は執務空間、オープンスペースで大きく分けて対応しているのでカウンターの形状が変わっても対応出来るようにしています。

・執務室に各課毎に壁面で分けているわけでないので自由度が高いということか。その場合、来庁者がカウンターに立つとそのフロアの他の課についても状況が見えるということなのか。

→他課の状況や市民の方の個人情報など見えてはいけないものは見えないようにカウンターやキャビネットの高さ調整することやレイアウトを検討していきます。

・ライフサイクルコストの縮減については具体的にどのような方法を使ってどの程度縮減する事を想定しているのか。

→現状は算定中です。一般的に建設時点でお金を掛ければ将来的な維持管理費の削減に繋がります。免震層を利用して雨水貯水槽を設け、庁舎での雨水利用を図ることや庁舎形状の工夫による外気を取り入れた換気や太陽光パネルによる発電やコージェネレーションシステムの導入など光熱水費の将来的な削減を導入費用と将来的な削減費用を比較しながら検討していきます。

・コストに跳ね返ってくるのは承知しているが、人や環境にやさしい庁舎を目指すのであれば、例えば内装に木の素材を使うなど庁舎内部の空間が無機質にならないようにして欲しい。

→了解しました。

・災害時に備えて最上階に電気室・発電機室を備えるとなっておりますがこの考え方はどのようなものか。

→従来は電気室・発電機室は重量があることや階高が必要なことから地下に設けていることが多いが、最近ではゲリラ豪雨などの影響で地下階が浸水する事もあり得るため階高が必要なこと等から中間階ではなく最上階に設置することにしています。

・GFや1階のロビー回りの一時避難場所について、どの程度の人数の一時避難者を想定していますか。

→避難所については危機管理課などと協議をしており、市庁舎は避難所として市民の方が寝泊りする施設としては想定していません。一時退避して来られる方がいた場合に、既に設定されている市内小学校などの避難所への案内をしたり安否確認所等としての役割を想定しています。また多目的ホールは災害時にお亡くなりになった方の遺体安置所等の役割を想定しています。

・GFと1Fにコンシェルジュを配置する事を想定していますが、この担当はどういう位置づけになるのか。

→現在、仮庁舎と市民課棟に総合受付があり、総務部の所管で実施しています。担当部局との調整は今後になりますがそのイメージで考えていただければと思います。

・各フロアの配置について、市民経済部がGFと4Fに分かれているが、何か理由があったのか。

→市民経済部については市民課、国保年金課等市民向けの窓口を持つ課と商工振興課や農政課等の事業者向けの業務を行う課があるため、限られた庁舎面積の中で同じフロアに配置することは難しく、部局ではなく来庁される方の利便性を重視して、フロアの配置をしています。

・前回までの設計では、1Fの研修室の隣に保育コーナーがあったが、今回はGFの会議室や市民協働スペースの近くに保育コーナーは設けられないのか。

→キッズコーナーは今回の設計案では2Fのこども部付近に設置しています。GFにも設置する場合は利用している子供を誰が見るのかなどの課題がありますが設けられるかの検討をします。

・パブリックコメントを来年実施する上でこの委員会で委員より質問のあった部分はより分かりやすく説明する等の工夫をしていただきたい。

→了解しました。

・住民票の発券機等を設置することは想定していないのか。

→発券機の設置は担当課との協議はまだしていないが、庁舎内にコンビニエンスストアを出店してもらうことで、市内にあるそのコンビニエンスストアの系列店でも住民票の発行が可能になっている他市事例があり、本市でもそういう形での利便性向上を検討していきたい。

・危機管理課や災害対策本部と消防庁舎との連携について、1Fまで降りてから移動するのか。消防との動線は離れていても問題は無いのか。

→消防本部等からの要望があり、セキュリティ上の理由であえて離している面があります。

・設計について、ヒアリングをした結果従来型の設計になっているような印象があるがその点はいかがか。

→現状では実際に庁舎を使用される方の要望を活かして現在中廊下型で検討をしています。その上で、将来的に市民の方の要望や職員の働き方が変わっていく中で片廊下・中廊下のどちらでも対応可能な設計としている状況です。

・3階までは市民の方も階段で移動することが有ると思うが、階段の位置についてより分かり易く

するようにしたほうが良いのではないか。

→エレベーター付近に階段が設置されているので、常に開いている状況にすることもできると思いますが閉庁時間のセキュリティとの兼ね合いでどのフロアまでオープンにするのか等検討していきます。

・エレベーターは何人乗りを想定しているのか。

→15人乗りを想定しています。

・GFにある市民課予備スペースについては何を想定しているのか。

→決定ではないですがパスポートの発行等の業務が増えることが想定されるためそのためのスペースを想定しています。

・時間外の職員の夜間出入口はGF北側ということか。

→その位置を想定しています。

・更衣室の数は、職員数で想定しているのか。

→具体的な職員数を把握して設定しています。

・屋外の喫煙スペースについては屋根や囲いを設けるのか。

→まったくのオープンスペースではなく、囲いや屋根などを設けて、他の来庁者などへの配慮を図ることを想定します。

・納税相談等を行う時にオープンなスペースではなく個室など話の内容が周りに漏れないような窓口の設置が必要になると思う。

→相談室や納税相談コーナーなど衝立で仕切りを作り話が周りに漏れない事や周囲の視線が気にならない窓口の設置を設計でも反映しています。

・カウンターの高さ、いわゆる立って対応するカウンターと座って対応するカウンターの割合等は把握しているのか

→ハイカウンター、ローカウンターについては各課にヒアリングをして把握しており、今後設計でも落とし込みを行っていきますので、それにより若干レイアウトも変更していくと思います。

・会議室について、プライバシーを保つ会議室とオープンに活動が見えたほうが良い会議室があると思うので壁面の仕様などで違いを設けるなどの工夫があると良い。

・GFや3階の大会議室の利用人数は144名となっているが人数で限定されている理由は何故なのか。

→人数については、あくまで目安で表示しているので利用形態によってはそれ以上の人数でも利用

可能となります。なお、GF、3階の大会議室ともに、現在ある一番大きい会議室である消防庁舎5階大会議室よりも大きな会議室となります。

- ・人にやさしい庁舎について、バリアフリーやユニバーサルデザイン等のハード面だけでなく、ソフトの面で親しみが持てるような内部空間になっていると良いと思う。極端な話、庁舎内部に樹木を植える事や寄付を募り寄付された方の名前を刻んだ木のプレートを内部空間の仕上材とすることで無機質では無い優しさや庁舎への誇りや親しみが湧くなどの人の感情に訴える工夫をすることができると思うので検討していただきたい。

3. その他

今後の検討委員会開催予定

第4回検討委員会 3月20日(金)9時30分から12時を予定とした。

4. 閉会